

悪法は「自己増殖」する

作家

志茂田景樹さん



悪法は独り歩きする。戦前の治安維持法も当初は市民から縁遠かったが、開戦前後から弾圧や拷問の口実に利用された。特定秘密保護法案も拡大解釈によって「自己増殖」し、改悪を重ねる危険性がある。だから、今回のような法律は作ってはいけない。

市民に「身に覚えのないことでもしよっひかれる」という意識を芽生えさせることが、権力者にとって一番効率がよい。根拠がないのに市民がいつもおびえ、「見ざる、聞かざる、言わざる」の社会になっていくのが恐ろしい。

世論が「やばいぞ」と思い始めた矢先、政府は法案の審議を早くさないまま衆院を通してしまった。今の状態は極めて危険だ。

秘密保護
法案

異議あり

私は憂う

このまま成立させたら、再び暗い時代がやってくるのではないか——。政府・与党が参院での審議を急ぐ特定秘密保護法案に、各界から異論が相次ぐ。もう一度立ち止まって考えたい。